

8012 いつも思うことだが、時代小説や推理小説を・・・

いつも思うことだが、時代小説や推理小説を書くというのは大変な仕事である。一般にこれらの小説はエンタテインメントといわれている。つまりたかが小説じゃないかというわけだ。しかしそのためにはこれらの小説の書き手は、優れた職人でなければならないと私は思っている。大体、生活人を楽しませるといえるのは骨の折れることなのである。エンタテインメントの世界は生活人からそっぽを向かれては、もはや立つ瀬がないのである。

久茂士朗『したたかな職人芸』

[許容訳例]

It is a hard task, I always think, to write period novels and detective storied. Such novels are generally referred to as “entertainment”: they are, it is held, strictly for amusement. I myself feel, however, that one must be an excellent craftsman in order to write them. Generally speaking, it is a tough job to please the man-in-the-street. The world of “entertainment” would not exist if it were not supported by ordinary people.

[翻訳例]

I always think what a hard job it must be to write period novels and detective storied. The general view of such stories is that they are “entertainment”: that their aim is to amuse and nothing more. In my opinion, though, in order to write this kind of story one needs to be a first-rate craftsman. To divert someone who is preoccupied with making a living is, by its nature, no easy task. Without the support of the man-in-the-street, the world of “entertainment” would lose its justification.

■いつも思うことだが、時代小説や推理小説を書くというのは大変な仕事である。(8012)

★「いつも思うことだが」ですが、I always think that [why, how, what, etc.]…がいいでしょう。これらの表現は会話的ですが、この随筆的な文章にはちょうどよいと思います。ただ、注意しなければならないのは、I think that…の場合には、自分が経験していなければいけませんから「さぞ・・・だろうと思う」というようなニュアンスが入っている場合には使えません。その場合にはI always think how[what a]…must be…という言い方になります。must be は「だろう」という話者の主観です。ここでは、小説家当人の意見とも、そうでない人の感想ともとれますので、どちらでもいいでしょう。「大変な仕事である」と続くので、ここではI always think what a hard job…としたい気分です。となると、ここではconsiderは使えません。considerを使う場合には、自分でも経験したり、あるいは実際に見たりして、判断の材料があるという場合になります。I consider him to be a very reliable man.という場合もそうです。基本的な判断の材料を持っていて、いろいろ熟慮した結果reliable manだと思えるという意味です。ですから、I always consider how difficult it must be…という言い方はしません。

★「時代小説」は a period novel です。歴史的事実に基づいて実在の人物を登場させる a

historical novel (歴史小説) は、ここでは使えません。

★「推理小説」は a detective story でいいと思います。総称して detective fiction という言い方もあります。mystery はちょっと程度が落ちるような気がします。

★「大変な仕事」は hard job ですが hard task も使えます。ただし、ここでは hard job の方が会話的でいいのではないかと思います。

■一般にこれらの小説はエンタテインメントといわれている。(8012)

★「一般に」は generally; as a rule が使えます。on the whole は「大体において」で、たとえば、On the whole I like him. (ちょっと気に入らないところがあるけど、大体において、いいんじゃないか) というような場合に使うものです。他には The general view of such stories is that…という訳も可能です。

★「これらの小説」は these novels でもいいですが、such novels も使えます。

★「エンタテインメント」は、特別の使い方なので引用符で囲んで“entertainment”とした方がいいです。

★「・・・と言われている」は、ここでは分類の仕方を言っているのですから be referred to as…; be regarded[considered] as…とか、It is held that…とかです。be called は「そういう名前を付けられている」という意味ですからここでは好ましくありません。その点では be known as…も同じ理由で使えません。

■つまりたかが小説じゃないかというわけだ。(8012)

★「つまり」は同じことをもう少し詳しく(あるいは、別の言い方で)説明しようということですからコロン(:)を使うといいと思います。

★「たかが・・・」には merely, solely, strictly などがありますが、…and nothing more で表すこともできます。

★「娯楽小説」は novels for amusement[recreation]ですが、novels はすぐ前でも使うので省いた方がいいでしょう。なお、「娯楽」ですが、pastime は、本人が何かやって遊ぶ場合、たとえば、Reading such novels is a pastime.というように使います。「趣味」といった感じで、小説自体が pastime とは考えられないので、ここでは使えません。

★「(たかが)・・・じゃないかというわけだ」は「(たかが)・・・じゃないか」が個人の意見であるのに対して、話者も含めてみんなの意見を述べていると考えることができます。ですから they are, it is considered, for amusement and nothing more とするといいと思います。

■しかしそのためにはこれらの小説の書き手は、優れた職人でなければならないと私は思っている。(8012)

★「そのためには」とは「そういう小説を書くためには」ということですから in order to write such novels…ですが、novel という言葉が何度も使われてくどいので、them とか、あるいは this kind of story に変えるといいと思います。

★「これらの小説の書き手」は writers of these novels としてもいいのですが、また novels を使うことになります。考えてみれば、この「書き手」は特定の人ではなくてもいいわけで

すから one を使うこともできます。

★「優れた」は excellently good とか first rate がいいでしょう。ついでながら、excellent という形容詞は This composition is excellent. のように predicate としてもよく使いますし、また、This is an excellent book. のように単なる形容詞としてもよく使いますが、ここの「優れた」に含まれている「他と比べてずば抜けて（あるいは、非常に）」という意味ではあまり使われません。

★「職人」は craftsman とか technician ですが、ここで一番いいのは craftsman です。なお、workman は使えません。workman というのは、何か特別な技能を持っていないでもいいのです。artisan は、今では art という感じはほとんどなくなって、workman に近い感じがします。場合によっては工場で働く人を言うこともあるので、ここでは使いたくありません。

★「・・・でなければならない」は、主観的な意見としては must be...であり、客観的な見地に基づくなら needs to be...でしょう。

★「・・・と私は思っている」は、理論的根拠に基づく「思っている」ではないので、I myself feel...とか in my opinion でしょう。

■大体、生活人を楽しませるとするのは骨の折れることなのである。(8012)

★「大体」は「これから言おうとしていうことは、一般的なことで、しかも何らかの形で今まで言われてきたことの説明になるけれど」と解釈できます。Generally speaking が考えられますが、翻訳としては、省いてしまうか、文の途中に after all (何しろ) とか by nature (もともと；そもそも) を使うのがいいと思われます。

●「隠れ連体修飾節＋体言」(生活人)

「生活人」は、ここでは「仕事に追われて、生活していくことだけで精一杯という日々を送っているので、あまり難しいものを読む気にならない人(たち)」という意味で「連体修飾節＋不定代名詞的体言」ですから「(代)名詞＋関係詞節」で処理することになります。たとえば、one who is preoccupied with making a living のように。なお、「隠れ連体修飾節＋体言」に似た造語法は英語にもあります。たとえば、the man-in-the-street (普通の人・素人・市井の人) がそうで、これも「生活人」の訳として使えます。ordinary people よりはましです。

★「楽しませる」は please でもいいですが、楽しませる対象が「生活人」なので、少し踏み込んで divert を使いたいと思います。divert には amuse の意味もありますし、「気を紛らせる、慰める」という意味もあるからです。to divert someone who is preoccupied with making a living です。

●「・・・というのは・・・である」は It is...to-Inf.あるいは To-Inf...is ...です。

★「骨の折れること」は no easy task とか tough job でしょう。

■エンタテインメントの世界は生活人からそっぽを向かれては、もはや立つ瀬がないのである。(8012)

★「エンタテインメントの世界」は the world of “entertainment” しかないでしょう。

★「そっぽを向く」は turn one's back on という表現があります。辞書には look the other way とか turn away が出ていますが、turn one's back on とはつまり turn the other way というものですから表現としては同じです。しかし、これらはいずれも動作を表す表現で、ここでは使えません。この「そっぽを向かれては」はメタファーですから、その意味をくみ取って without the support of…とするか、あるいは if it were not supported by…です。

★「立つ瀬がない」は、普通は「立つ瀬＝世間に対する面目」という意味で、辞書には「君に断られては立つ瀬がない」(Your refusal will put me in dilemma [leave me in an awkward position].)という例が挙げてありますが、ここでは「成り立たない、何にもならない、やっていけない、存在理由がない」というような意味で使われているので、利用できません。ここでは could not exist if it were not supported…とか、could not keep going (やっていけない) とかの表現か。Where would something be…?という表現、これは、たとえば、Where would I be without my wife?は「どうしようもない」という意味になりますが、これを使って Where would the world of “entertainment” be without the support of the man-in-the-street?とすることができます。ただし、直接話法的な文を地の文に入れるのは好まれませんので、Without the support of the man-in-the-street, the world of “entertainment” would lose its raison d'être [lose its justification]とするといいでしょう。